



前立腺がんについて

前立腺がんの患者は多いですか？

前立腺がんの患者は近年増加しており、令和7年の1年間に9万9,900人の男性が前立腺がんと診断されていると推測されています。

この数は、男性に発生するがんの中で最も多く、女性で最も多いと言われる乳がんより約1,000人ほど、大腸がんより約1万人、胃がんより約2万人多い数です。

どのようにして発見しますか？

治療により治る可能性が高い早期の前立腺がんには特有の症状がありません。そのため、症状によりがんを疑うことは困難です。

しかし、前立腺がんの患者では、血液中のPSA（前立腺特異抗原）という値が上昇します。このPSA値が4より高い場合、前立腺がんの可能性が高くなります。そのような人には、精密検査をお勧めします。

PSAは採血で調べることができる検査です。鞍手町でもPSAを用いた前立腺がん検診を行っております。全国での前立腺がん検診受診率が10～15%であるのと比べて、鞍手町の前立腺がん検診受診者の割合は7.4%であり、約半分の受診率となっております。50歳以上の男性の皆さんは、一度、前立腺がん検診を受けられることをお勧めします。

このPSA値が高い場合には、MRIという画像検査を行い、がんの疑いがあれば前立腺の一部を針で採取して調べる「生検」を行います。

最近では、MRIと超音波を組み合わせる新しい前立腺の生検方法があります。この方法では、従来の生検方法と比べて正確にがんを診断でき、15%ほどがんの診断率が上がります。くらて病院では、近々この新しい検査方法を直轄エリアと八幡西区エリアで初めて導入予定です。

前立腺がんは早期に発見し、適切な治療を行えば治る可能性が高く、約90%の患者で10年以上の生存が可能です。排尿に関する症状がある、またはPSA検査を受けたことがない50歳以上の男性の方は、PSA検診や泌尿器科の受診をお勧めします。

藤本 直浩 ふじもと なおひろ プロフィール



1984年 島根医科大学医学部（現島根大学医学部）卒業
1984年 産業医科大学病院 臨床研修医、専修医（泌尿器科）
1985年 原三信病院へ出向・派遣
1987年 産業医科大学医学部泌尿器科助手
1990年 福島労災病院へ派遣
1996年 米国ウイスコンシン大学 Comprehensive Cancer Center
1997年 米国ロチェスター大学 George Whipple Lab for Cancer Research

1998年 北九州市立戸畑病院泌尿器科部長
2000年 産業医科大学医学部泌尿器科学講座講師
2003年 産業医科大学医学部泌尿器科学講座助教授（現准教授）
2015年 産業医科大学医学部泌尿器科学講座教授
2018年 産業医科大学病院 がんセンター長
2020年 産業医科大学若松病院 病院長
産業医科大学病院 副院長
2024年 4月より地方独立行政法人くらて病院 理事長